追手門学院大手前高等学校

令和５年度　社会科

教科	科目	日本史演習	単位数	４	年次／コース	高校３年生/進学
使用教科書	詳説日本史Ｂ(山川出版社)、					
副教材など	詳説日本史 10 分間テスト(山川出版社)、復習と演習日本史テスト(山川出版社)					

１．担当者からのメッセージなど（学習方法など）

既習事項である原始・古代の時代からを振り返り、大学受験に必要な絶対的な知識を確実に習得することを目指したい。

本講座で意識してほしい点は以下の２点である。①確実な知識を理解するためには、繰り返し演習を行うこと。②単なる暗記ではなく、内容の理解に努めること　この２点を意識し、諸君の希望進路実現につなげてほしい！

２．学習の到達目標

高校３年生で実施される、学内模試においてＳＳ60 以上をコンスタントに得点できることを目標にしたい。また、２学期以降は共通テストや難関私立大学などの傾向と対策、分析を行うので、各自の志望進路先の対策ができるようになることが大きな目標であると考える。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	Ａ：関心・意欲・態度	Ｂ：思考・判断・表現	Ｃ：資料活用の技能	Ｄ知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	日本の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し日本の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	リフレクションシート	定期考査 初見文章や初見資料を用いた問題 授業内の問題演習	探究的授業課題 授業内の問題演習	定期考査 授業内の問題演習

※日本史講座では、基本的に日本史Ｂ(高２で履修)で一度履修した範囲の復習及び補足を行っていく。そのため、上記の観点の趣旨・評価方法は基本的には２年次のものと同一であるが、学校登校が 12 月までということや受験期ということを鑑み、パフォーマンス課題による評価については時間の関係で基本的には実施しないものとする。

４．学習活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準	評価方法
			A	B	C	D		
1	〈第Ⅰ部〉 原始・古代 第１章 日本文化のあけぼの							学習評価に基づいて適宜評価する。
		1 日本文化のはじまり		○	○	○	第１章 (A)歴史とは資料をもとに叙述されるものであることを演習を通じて理解し、歴史への関心を持つことができる。	
		2 農耕文化の成立と小国分立		○	○	○	(B)日本列島形成の過程と大陸文化の需要について様々な資料から考察し、表現できる。 (C)演習を通じて考古資料が持つ多様な意義を理解する。	
		3 古墳文化とマト政権		○	○	○	(D)古代国家が形成される過程についての知識を身につけ、理解する。	
	第２章 律令国家の形成	1 推古朝と飛鳥文化		○	○	○	第２章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、歴史を学ぶこの意義を説明できる。	
		2 大化改新と律令制の成立		○	○	○	(B)大陸文化の需要から政治・文化の国内変容について様々な資料から考察し、表現できる。 (C)文字資料が表す歴史について考察できる。	
		3 平城京と天平文化		○		○	(D)貴族文化が登場するまでの歴史的な推移に関する知識を身につけ、理解する。	
		4 平安初期の文化政治と文化		○		○		
	第３章 貴族社会と国風文化	1 藤原氏の台頭と摂関政治		○	○	○	第３章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、現代社会における文化の源流を見出すことができる。	
		2 国風文化		○		○	(B)貴族政治と文化の国風化に関して、様々な資料から、その共通点を考察し、表現できる。	
		3 荘園の発達と武士団の登場		○	○	○	(C)絵画資料が表す歴史について考察できる。 (D)貴族政治の最盛期から実力主義の世界へと変容していく様子についての知識を身につけ、理	
	〈第Ⅱ部〉							

	中世 第４章 中世社会の成立						解する。	
		1 院政と平氏政権		○	○	○	第４章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、権力構造の変遷の一形態を把握することができる。 (B)武家政権の成立過程と、大陸との交流の変化について、その相互的関連を考察し、表現できる。 (C)これまで学習した多様な種類の資料について、学ぶ事象に応じて、適切な資料を用いることができる。 (D)武家政権の成立とともに変容した中世の社会情勢についての知識を身につけ、理解する。	
		2 鎌倉幕府の成立と執権政治		○	○	○		
		3 武士社会の構造		○	○	○		
		4 蒙古襲来と幕府の衰退		○	○	○		
		5 鎌倉文化		○		○		
	第５章 武家社会の成立	1 南北朝の動乱と室町幕府の成立		○	○	○	第５章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、政治権力が二重に存在することの意義を理解する。 (B)武家政権の変遷と下克上の風潮が文化にも多様な影響を与えたことについて考察し、表現できる。 (C)これまで学習した多様な種類の資料を適切に用いながら、武家政権の特質を理解する。 (D)武家政権が持つ論理によって下克上の風潮が生まれたことについて理解する。	
		2 室町幕府の衰退と庶民の台頭		○	○	○		
		3 室町文化		○		○		
		4 戦国大名の登場		○	○	○		
2	〈第Ⅲ部〉 近世 第６章 幕藩体制の成立	1 織豊政権と桃山文化		○		○	第６章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、武家政権の中から戦のない社会が実現した理由を探ることができる。 (B)幕藩体制に対する理解を通じて、江戸幕府の支配体制が長期に渡った理由を考察し、表現できる。 (C)文化における作品の資料的価値を見出すとともに、幕府による社会の安定が文化にもたらした影響を推察できる。 (D)幕藩体制についての知識を身につけるとともに、その構造を理解する。	
		2 幕藩体制の成立		○	○	○		
		3 江戸初期の外交		○	○	○		
		4 寛永期の文化		○		○		
		5 幕藩社会の構造		○	○	○		

	第７章 幕藩体制の展開	１ 幕政の改革 ２ 宝暦・天明期の文化 ３ 幕府の衰退と近代への道 ４ 化政文化		○ ○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○ ○	第 7 章 (A)歴史を学ぶことの実践を通じて、政権が抱える制度的な矛盾について言及することができる。 (B)幕府による支配構造の中で民衆が果たした役割を理解し、そこから現代に通ずる問いを見出すことができる。 (C)歴史を叙述するうえで資料の存在が必要不可欠であることを再確認していくなかで、近世社会の同様について読み解くことができる。 (D)近代に至る変化を受容するには民衆における教が必要不可欠であったことを理解する。	
	第８章以降	全学習内容		○	○	○	※本年度履修している日本史Ｂでの学びの進捗状況を確認しながら適宜問題演習を通じて、同一内容で評価を行う。	

※ 上記の表は基本的には２年で日本史Ｂと３年で履修する日本史Ｂの内容を基に作成している。

※ Ａの評価については単元によらず全授業で行うものとする。

※ 問題演習は基本的に大学入試の過去問を活用する。場合によって単元を入れ替えて学習することもある。